



仏検

—— 仏検 ポスト40周年に向けて ——

実用フランス語技能検定試験（仏検）存続発展のためのご寄付のお願い

フランス語教育振興協会（APEF）は、1981年創設の「実用フランス語技能検定試験（仏検）」を実施し、日本におけるフランス語教育の振興を目指す公益財団法人です。文部科学省と在日フランス大使館の後援の下で日本の機関が開催する唯一の公的なフランス語検定として、「仏検」は国内外から高い評価を受けています。1級から5級まで、仏検の7つの級は、学習到達レベルを表す客観的な指標として個々の学習者の動機づけを果たすとともに、推薦入試・交換留学の選考要件、就職活動、社内昇進や海外勤務の選抜評価といった教育および社会の様々な場面において、信頼性の高いフランス語の評価基準として活用されてきました。昨年までの累計出願者数は95万人を超えています。

2020年春、コロナ禍によって仏検春季試験の開催中止を余儀なくされたことで、当協会の運営は苦境に立たされました。法人年間収入の4割にあたる検定料収入が途絶える見込みとなったことから、2020年6月に「仏検存続のためのご寄付のお願い」の呼びかけを開始しました。2026年3月末までの6年間で1,933件、総額2,800万円を超えるご寄付を賜り、協会運営と事業の継続に大きな力を与えていただいております。ご賛同くださった皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。法人としては、今後も内部経費の削減、業務の効率化、公的助成の獲得など、できる限りの努力を続けてまいります。

コロナ禍の中においても、試験開催に携わる全国の関係者のご協力のおかげで、2020年度秋季以降の仏検は順調に実施を続けています。しかしながら、受験者数はコロナ禍以前に比べ約3割減の状態が続く一方で、昨今の物価の上昇を受けて、会場と人員の確保、情報システムの維持管理等、試験運営に必要な諸経費は高騰しています。安定した受験機会を提供し続け、さらに試験内容の質的充実を目指すことを旨とし、実施団体としての財政基盤の安定化を図るため、「仏検存続発展のためのご寄付」の呼びかけは行ってまいりたく、ご理解とお力添えを賜りましたら幸甚に存じます。

グローバル化社会と言われて久しいですが、グローバル化は地球社会の画一化をもたらすどころか地域課題の顕在化をもたらし、多様な文化的アプローチを必要としています。一つの外国語ができれば地球規模の課題に対応できるというものではありません。また、多くの国際機関では英語とフランス語が公用語、作業言語となっています。

日本におけるフランス語学習の柱として、創設46年目を迎える「仏検」をさらに新しい時代へと繋ぎ、ひろく生涯学習社会におけるフランス語能力検定制度として発展させ、ひいてはグローバル社会における多様性の維持に貢献するためにも、当協会の公益事業「仏検」の活動にご理解とご賛同を賜り、ぜひご寄付をお寄せくださいますよう、心からお願い申し上げます。

2026年4月

公益財団法人フランス語教育振興協会
理事長 西澤 文昭



※皆さまのご支援のおかげさまをもちまして、内閣府より公益社団法人等寄附金特別控除が認められております。当協会にお寄せいただいた個人からのご寄付は、確定申告時に所得控除と税額控除のいずれかの適用をお選びいただけます

※お手続きの詳細はホームページにてご案内しております 〈お問い合わせ〉 donation@apefdapf.org